

科目名	器質性構音障害					授業の種類	演習	必修・選択		必修	
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期		2年	前期
【授業の目的・ねらい】 口唇口蓋裂と舌・口腔咽喉頭の器質性疾患について概説し、各疾患から特徴付けられる構音障害を理解できる。器質性構音障害の評価と訓練および経過を理解できる。											
【実務者経験】 姫路市社会福祉事業団、姫路市総合福祉通園センターなどで小児発達分野の言語聴覚療法に従事経験。											
【授業全体の内容の概要】 口唇口蓋裂や舌、口腔、咽喉頭腫瘍その他の器質性疾患による構音障害についての特徴、分類、評価法および訓練の計画と訓練方法の基礎的知識を身につける。											
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 器質性構音障害についてその概要を説明できる。 器質性構音障害の評価法と訓練法について説明できる。											
回数	講義内容									準備物(教材)	
1	器質性構音障害の概念について理解できる。									PPT, PC	
2	スライドの供覧により構音・音韻発達・構音障害のメカニズムと検査・評価、音声学的側面について理解できる。									PPT, PC	
3	口蓋裂の言語臨床に必要な基礎知識、口蓋裂言語について理解できる。									PPT, PC	
4	口蓋裂術後言語障害①構音器官の形態と機能評価、訓練の実際を理解できる。									PPT, PC	
5	乳児期の言語臨床について理解できる。									PPT, PC	
6	幼児期の言語臨床について理解できる。									PPT, PC	
7	児童期の言語臨床について理解できる。									PPT, PC	
8	思春期、成人期の言語臨床について理解できる。									PPT, PC	
9	特別な問題をもつ（症候群に存する）症例について理解できる。									PPT, PC	
10	異常構音（6種類）と音声聴取、系統的構音訓練について理解できる。									PPT, PC	
11	成人の器質性構音障害について基礎的な知識を身につける。									PPT, PC	
12	舌・口腔咽喉頭切除等による発声発語器官の形態と機能の特徴を理解できる。									PPT, PC	
13	構音の評価と訓練について理解できる。									PPT, PC	
14	医学的アプローチと補綴、発話補助手段について理解できる。									PPT, PC	
15	チームアプローチについて理解できる。									PPT, PC	
【使用教科書・教材・参考書】 『言語聴覚士テキスト』第3版 医歯薬出版 『言語聴覚障害シリーズ9 器質性構音障害』											
【準備学習・時間外学習】 予習としてテキストを読んでおくことや講義後の復習が必要です。											
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。											